

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成29年10月5日(2017.10.5)

【公開番号】特開2013-244411(P2013-244411A)

【公開日】平成25年12月9日(2013.12.9)

【年通号数】公開・登録公報2013-066

【出願番号】特願2013-109697(P2013-109697)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

A 6 1 B 17/32 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/56

A 6 1 B 17/32 3 3 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年8月28日(2017.8.28)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 5】

図 1 及び 2 は本発明によるオブチュレーター 10 を示す。これは、遠位方向に延びる細長いシャフト 14 を有するハンドル 12 を含む。シャフト 14 の末端は遠位側に突出した突起 16 は、シャフト 12 の中心軸線 18 からずれている。突起 16 は、近位基部 20 から遠位先端 22 へと延びている。先端 22 は、貫通を助け、かつ貫通時の組織損傷を回避するように、先端が丸くなっている。孔 24 はオブチュレーター 10 の中を貫通し、ハンドル 12 からシャフト 14 を通り突起遠位先端 22 から外に出る。この孔は、ガイドワイヤー 24 を通すような寸法にされる。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 1】

図 7 A は、本発明による第 2 のオブチュレーター 70 の実施形態を示す。これはハンドル 72 とシャフト 74 を含み、シャフト 74 の末端にはアバットメント 78 を画定する突起 76 がある。深さ目印 80 がシャフト 74 上に提供され、好ましくは印字された深さ表記を備えた環状溝部を含む。ここで図 7 B 及び 7 C も参照し、ブレード部材 82 はオブチュレーター 70 内に取り外し可能に収納され、シャフト 74 内を通りかつ末端に遠位ブレード 86 を有する細長いロッド 84 を含む（図 8 A 及び 8 B を参照）。ロッド 84 の近位側 L 字型グリップ 88 は、ソリ 90 内に収納され、ハンドル 72 のチャンバ 92 内で近位側及び遠位側に動く。レバー 94 は軸 96 を中心に旋回可能に取り付けられ、ソリ 90 内に受容される係合脚 100 に接続された引き金 98 を有している。これによって、引き金 98 をハンドル 72 方向に押すことによって生じたレバー 94 の回転が、ソリ 90 の遠位方向への動きをもたらし、これによってブレード部材 82 が遠位方向に動く。チャンバ 92 内のパネ 102 は、スレッド 90 上のアバットメント 104 に対し、近位方向の偏向力がかかる。ハンドルの可撓性金属ストリップ 106 の端がチャンバ 92 内に突出しており、これが引き金 98 の動程の最後で係合脚 100 の突起 108 に係合し、ユーザーに触覚

的フィードバックを提供する。ハンドル 7 2 のラッチ 1 1 0 は、引き金 9 8 のスロット 1 1 2 に係合し、ブレード 8 6 が延伸した状態でレバー 9 4 をロックする。孔 1 1 4 はハンドル 7 2 とシャフト 7 4 の中を貫通して、ガイドワイヤー 2 4 を受容する（図 7 A ~ 7 C には図示なし）。